



interview Vol.13

東京土木施工管理技士会

優良技術者インタビュー

施工の最前線に従事する土木技術者の日ごろの努力や創意工夫を称えるため、規程に基づき優良技術者の表彰を毎年行っています。今年度の受賞者である児玉建設(株)・田村さんに、この業界をめざすようになったきっかけや、土木工事との向き合い方などについてお話をうかがいました。



児玉建設株式会社

田村 弘一郎さん

(工事部 課長)



大栗川堤防緑化工事(その14)

主な工事内容

八王子市・多摩市を流れる一級河川「大栗川」は、かつては大きく蛇行し、氾濫を繰り返していた。

1970年代、多摩ニュータウン開発に併せて護岸を整備して水害の発生を抑えてきたものの、それから数十年が経過して河川構造物の老朽化が進行。老朽化した護岸の再整備により、安全性を高めると共に護岸の緑化、遊歩道・階段の整備等、親水性向上にも配慮した河川工事が行われた。



祖父から教わったモノづくりの楽しさ 道路の曲線美に魅せられ、土木の道へ



小学生の頃、祖父が竹を削って竹トンボを作ってみせてくれたことがあり、自分でもそれを真似しながらやってみた…というのが私のモノづくりの原点です。その後、竹ひごを使ってゴムで動く模型飛行機にもチャレンジし、主翼の曲がり具合を火であぶって調整するなど、自分の手で作って動かすという楽しさを覚えました。

中学時代から数学が好きになり高校では物理を選択、理数系に進み、大学では土木工学を専攻しました。

そして大学時代、山梨県にある大学のセミナー施設へ友人たちと車で向かった際に、高速道路の滑らかなカーブとその走りやすさに感銘を受け、「自分もこんな風に気持ちよく走れる道路をつくりたい」と思いました。それがこの業界に入ったきっかけですね。

道路・河川・橋梁など多様な 土木現場に従事



今の会社に入社し、道路はもちろん下水道、河川の整備から橋梁など、様々な土木現場を経験させてもらいました。印象に残ってるのは、12年ほど前に手がけた吉祥寺のニューマチックケーソン工事と、お台場にある「のぞみ橋」の耐震補強工事ですね。

住宅地に囲まれた都市土木からクレーン台船を使うような海洋工事まで、多くの現場に携わってきて思うのは、やはり「段取り八分仕事二分」。つまり、先々まで考えて予測と準備を万端にしてから施工に臨むことの大切さです。土木は自然を相手とすることが多いので、いつどんな不測の事態が起きるかわからない中で常に緊張感を持ち、「これでいいだろう…いや待て、本当にこれでだいじょうぶか?」と疑問を投げかけながら作業を進めるようにしています。

増水・冠水に対処しながらの作業 河道改修の「仕上げ」を担う



今回の工事では、大栗川の古くなった護岸コンクリートをいったん解体し、川の流れて川底が削られないようにする「護床工事」、遊歩道の上下にそれぞれに「低水護岸工事」「高水護岸工事」を行いました。

川の中央に鋼矢板を連続打設して半分に仕切り、片側をドライにしてから川底に護床ブロックを設置していく作業を繰り返し、約121mに渡って河床を補強しました。工事用車両が河岸から河川敷にアクセスするためのスロープが設置されていたのですが、最終的にはこれも撤去してコンクリート護岸を築かなければならないので、広範囲を一気に施工するのではなく、様々な作業を分割して行うという手順の難しさがありました。

大栗川は、ふだんは水量が少なく流れも緩やかですが、雨が降ると下水道等からの流入で水位が高くなります。現場の施工条件等により、出水期に一部の工事を施工しなければならず、通年施工となり、出水期は時々増水・冠水の危険を伴います。「水位がここを超えたら作業中断して避難」という基準はもちろんありつつ、作業前・作業中は、現地よりも上流の天候に常に注意して急な増水に備える必要があります。実際に冠水したあとは現場が流木や流砂などで埋め尽くされるので、それらを作業スペースから除去する作業も発生します。とにかく雨や水を気にしながらの工事で、それを何とか工期内に終えられたことを評価していただいたのかなと思います。



現場見学会にインターンシップ… 業界の「魅力発信」にも注力



工事期間中は、地元の小学生を招いての現場見学会で実際の重機に触れてもらいました。また、高校生を対象としたインターンシップを実施して測量を体験してもらうなどの活動も行いました。担い手不足が叫ばれてる昨今、若い世代が少しでも興味を持ってほしいという願いからです。

その甲斐あってか、今年はインターンシップで来てくれた都立高校の卒業生が当社に入社してくれました。地道な活動が実を結んだのは喜ばしいことです。

休日は愛犬とともに ドライブや旅行へ



動物が好きなので、休日は愛犬といっしょに那須どうぶつ王国に行っている。いろんな動物を見たり、ドッグランで犬を遊ばせたりしています。

最近はペットOKのホテルも増えてるので、旅行に行くときはそういうところに泊まっていますね。犬と車中泊することもあります(笑)。



モノづくりの喜びを 次代に伝える



今回の工事でも一部でICT施工技術を導入し、デジタル化が更に進みつつあります。しかし一方で「穴を掘ったらそこを埋める」という従来の手順そのものは大きくは変わらず、やり遂げた仕事が形として残る喜びもまた不変のものです。新しい技術も取り入れつつ、モノづくりの楽しさを次世代に伝えていければ、と思っています。